

「障害児とプライバシー問題」へのコメント

「障害児とプライバシー問題」の記事を目にして下さった方から、早速コメントをいただきました。

参考までに、ご覧下さい。

2006. 6. 19. 阿部幸泰

①コラムを読まさせていただきました。

授業を受けていても、実感しましたが、私は障害者の方のことをほとんど知りません。

先生が HP に載せていらっしゃった後見人問題についても、何一つ知っていたことはありませんでした。

先日、私は地元のお祭りのお手伝いに行きました。担当はちびっ子広場です。

そこに障害をもった子が友達と一緒に遊びにきてくれました。ですが、私はどう対応していいのかわかりませんでした。

それがとても悔しく、知っていれば、できていればと後悔しました。

今の私でも何かできることはあるでしょうか？

失礼かと存じますが、よろしければ、何かアドバイスなど頂けないでしょうか？

どうかお願いいたします。

①への私の返信

障害児と係わるのに困ったとか。あまり障害に拘ったからですよ。

あなたも人と違う色々な特徴を持っていますよね。障害もその子どもの特徴の一つに過ぎません。

ですから、障害に拘らず、それ以外のことで子どもの一人として係われれば、何のことないですよ。

だって、その障害児を連れてきたお友達は、ごく普通に接していたでしょ！

変に障害に拘るのは大人で、子どもはみんな同じように友だちして接していますよね。

ただ、障害も特徴の一つに過ぎませんが、その特徴故に生活に不自由を強いられている

のも確かなこと。

それだけに、何故に不自由を強いているかを、保育士等のプロはよく観て支援をしていく必要があります。そのために、今色々な勉強をしているということになります。

解らないこと、知らないこと、気になったこと、何でもいつでも遠慮なくメールで聞いて下さいね。

そうしてまず疑問を持つことが、あなたの感性を育むことですからね。

② HP 拝見しました。プライバシーの問題、難しいですね。

親と子の関係にもよると思います。

ある有名な歌手の家族を紹介してる場面で二人兄弟のひとりが障害者。

後ろ姿しか写しませんでした。片方の子はちゃんと写ってました。

子を守りたい親の意図なのか、晒したくないがあるのでしょうか。親の勇気がいるでしょうね。どんなリスクも背負う覚悟が。

自分だったらと考えました。少なくとも地域の理解をの努力は必要でしょうね。子の居場所を広げて置くために。

子にとって親は絶対です。

その人から否定される存在は「死」にも等しい。親の資格にかかわる問題ですよ。

問題の無い子なんていません。なんらかの心配を抱えて大人になりますよね。

ありのままを受け入れて貰えて「居場所」になるのではないのでしょうか。

居場所のない生活は子を追い詰めます。まして、障害児にとって「そのままのお前が大事だよ。」のメッセージを貰えない子は不幸ですよ。

ぼかしたりして TV にだすなんて子に対して失礼ですよ。

しっかりした親子関係を築いて行きたいものですね。

②への私の返信

あなたのいうように、日頃の親と子の関係はどうかによりますよね。

ぼかしを入れたり、後ろ向きの写真を載せるぐらいなら、写真を使うな！とまず云いたいです。

ぼかしや後ろ向きにしか写真を親に使って貰えない子どもとしての心境は、「家族の中

では自分の存在は何なのか」と思い、家族の中に居場所がないということ程、辛いものはないと思いますよ。

それこそ、人権侵害でないでしょうかね。

ですから、ぼかしを入れた我が子の写真を自分のHPに使うような親に、「何のためのHP作成で、どうしてぼかし写真をわざわざ使う必要があるの？」私は聞きたくなります。

「親であることは、難しい」というのは、こうした親がいるから。

世間的にどうのこうのというよりも、障害がある、なしに拘わらず、まずは子どもを包み込み、子どもにしっかりと居場所を実感させてあげるのこそ、親の役割ですよ。

そうした営みからこそ、日頃の親と子の豊かな関係を育んで行くものと思います。

正に、明石さん親子の生き様にその実践例が見られると、私は思っています。

「親であること」を日頃思索せず、無神経に、無配慮に子どものプライバシーを侵害している親も確かにいるでしょう。

逆な話もあります。

ある通所作業所の〇周年記念誌を作る折、青年達に作業風景等の写真を載せたいので本人たちに承諾を得たら、みんな喜んで承諾した。念のために親に承諾を求めたら4割が拒否。

出来上がった記念誌を見て、親が拒否した青年達は「(自分の)写真がない！」と呟いたとか。

成人である我が子の主体性を、なぜ親は尊重しないのでしょうかね。

今回の障害者自立支援法で障害者の主体性、自主性尊重に基づく社会の支援が謳われながら、親自身がそれらを否定してることにならないでしょうかね。

こうした自分が親であることを思索せず、ただ社会にだけ支援の方策を求めるような身勝手な親を、周りは快くサポートする気にはならないですよ。

我々は難病の子どもや障害のある子どもやご家族の直向きな生き様を知ることから生きることへの何かを学び、時に逆に勇気づけられていますよね。

そこまで踏み込んで解説して親子に生きる勇気と誇りへのアドバイスせずに、単にプライバシー侵害という得たいの知れない言葉を持ち出して、親をビビらせるだけのその道の

権威者（？）って、何の道の権威者なのでしょうね。

また、写真掲載を拒否した親を、我が子のプライバシーをよくぞ擁護したと褒め称えるのが、その道の権威者（？）なのでしょうかね。

それより、写真を公にすることで、先々子どもが地域から被害を受けるかとも思うなら、加害者となる地域の人々や社会の未熟さを指摘し、改革して行く方策を示唆するのこそ、その道の権威者というにふさわしいのではないのでしょうか。

全ての人に共通、共有する道は、「人」の「道」。

人をビビらせたり、成人である青年の意思を尊重しないことが、人の道とはどうしても私には思えません。

それより、生きる喜びと誇りと勇気を互いに与え合う（係わり合い、輔け合う）ことこそ、人の道と私は思いたいです。

あなたも、そう思いますよね。

③明石通信も届き、読ませて頂きながら、改めて明石さんが繋がりの輪を笑顔で広げられるのをすごいなーと驚きつつ、私達も身近な事からでも出来る事を見つけて頑張りたいなと励まされました。

④当事者性を大事にする（親には厳しい？）強面（！）の阿部先生からそういわれて、それは私の生き方を認めてくださっている証拠ですから、うれしいですね。

先生が、私達の生き方を認めてくださっているので、本当に嬉しいです。

元気が出ます。

今回の明石通信の「プライバシー」の件は、とても反響が大で、皆さまから感想を頂き、嬉しい悲鳴を上げています。

皆さまからのコメントに、とても勉強させられています。

いろいろ難しいことが多いテーマですが、本当にいろんなことを考えさせられ、いい勉強をさせていただいております。

「障害者をあたりまえに町の構成員に」と親の会でも言っていますが、「家族の一員」として居場所がないのでは、まさに砂上の楼閣ですね。

本当に写真ひとつに、親の、家族の、あり方（生き様）が見えるのですね。

プラス思考しましょう。

そうしなければいつまでたっても世の中は変わらず、より悪くなるだけです。

阿部先生のコメントがとても勉強になります。

気がつかなかった本質を深く考えることができ、親として成長できます。

やはり当初依頼した「先生、私のブレインになってください」は成功です！！

これからもよろしく。

④への私の返信

生きる営みには、何事も+（プラス）と-（マイナス）の両側面があるもの。

-の側面だけを気にしていたら、この世、生きて行けませんよね(^o^)

諸々の要素を包括的に検討して、+の側面が多いと思えば後はゴーあるのみ。

現代社会は情報過多故に、-の側面で気になることを見聞することから、「もしかして…」、「もしかしたら…」と思うことが多いですが、それがいつの間にか自分や家族の生きる喜びを抑制しかねていませんよね。

私は、情報や知識を自分なりに理解・納得し、自己責任で生きる営みを選択する自由人でありたいです！

どう自分なりに理解・納得・選択するかは、正にプライバシーですよね。

その自由を犯されることこそ、プライバシー侵害ですよね。

あれっ、これも自分なりに理解・納得するという、私の屁理屈かもね(*^_^*)